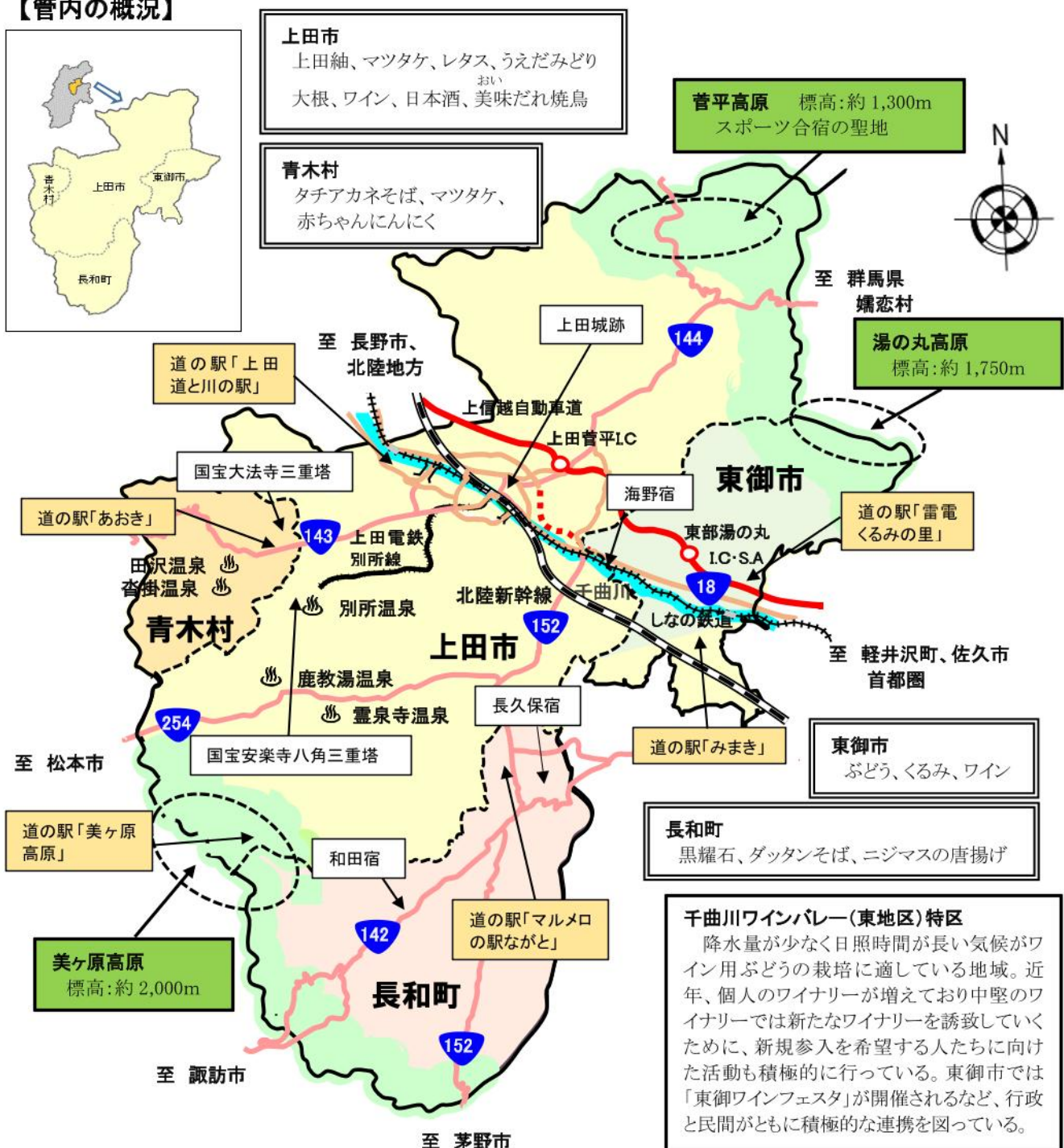


上田地域（上田市、東御市、長和町、青木村）

上田地域の特性

- ・ 上信越自動車道、北陸新幹線が東西にほぼ並行して走り、長野地域、北陸地方や佐久地域、首都圏と高速交通網で結ばれています。また、隣接する松本地域や諏訪地域とも幹線道路で結ばれ、交通の結節点となっています。
- ・ 国宝や重要文化財等の名所・旧跡や温泉、高原など魅力的な地域資源を有し、平成28年放送の大河ドラマ「真田丸」の効果により、上田地域の知名度が飛躍的に高まっています。
- ・ 県土の6.7%の面積を占めるコンパクトな地域の中で、工業・商業はバランスよく発展し、少雨多照の気候と標高差を生かした農業が営まれています。
- ・ 高等教育機関や専門学校が集積し、若者が多く居住しています。

【管内の概況】

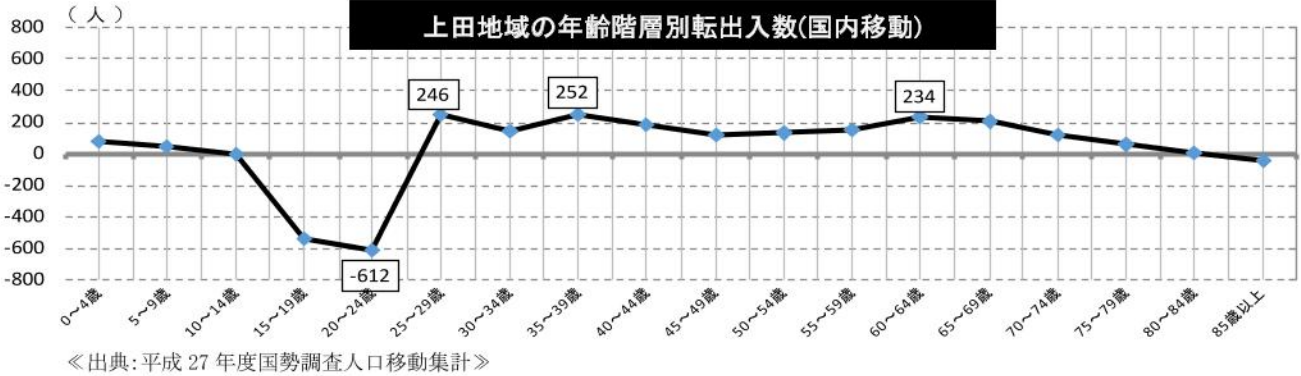


【人口】

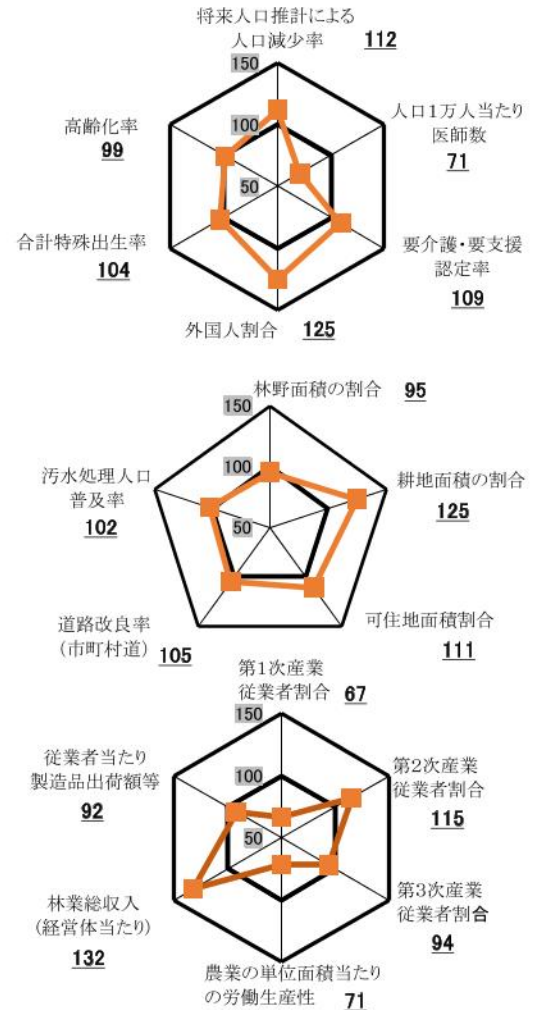
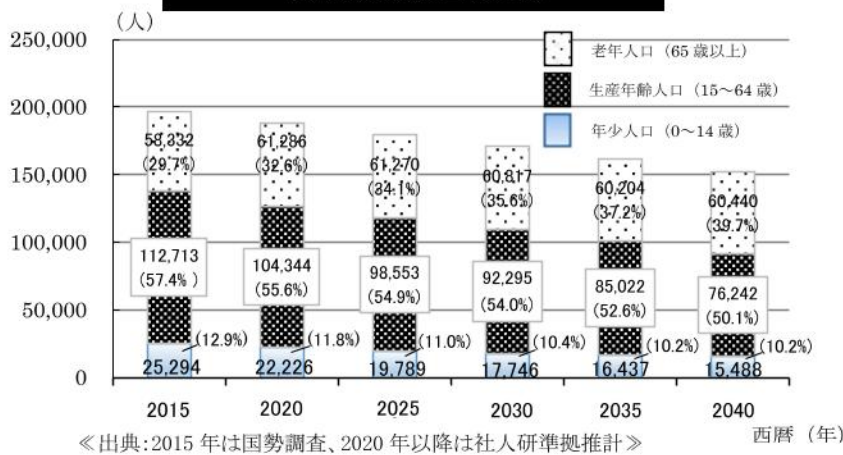
上田地域の人口の推移



上田地域の年齢階層別転出入数(国内移動)

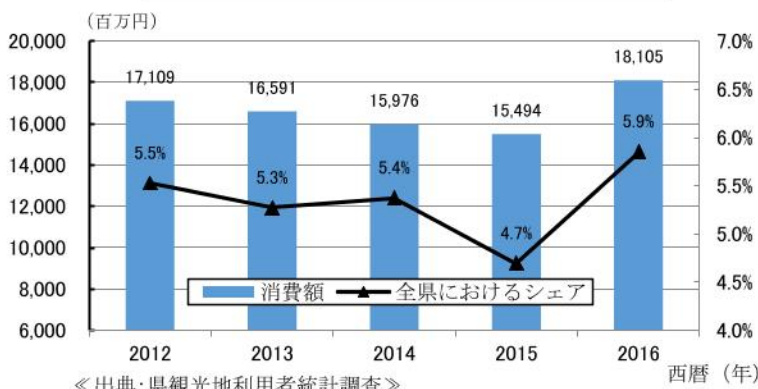


年齢区分別人口の推移



【産業・地勢】

上田地域の県内シェア率(観光消費額)



注)各指標は長野県を100として上田地域と比較(指数)

【人口の推移】管内人口は、社人研推計によると2040年までに2015年比77.1%まで減少すると予想されるが、管内自治体が作成した人口ビジョンでは人口減少に歯止めをかける政策により、85.4%まで抑制する見通しとなっている。

【年齢階層別転出入数】転出のピークは進学や就職の時期と重なる20歳~24歳となる一方、転入は子育て世代と推定される35歳~39歳が最も多い。

【人口関係データ】「人口1万人当たり医師数」は県平均より29%少ないことから、医師の確保が課題となっている。また、約3千人超の外国人が居住し、専門学校等で学ぶ外国人留学生も多く居ることから、「外国人割合」は県平均より25%高くなっている。

【産業関係データ】「林業総収入(経営体当たり)」は、効率的な経営などにより県平均を32%上回っている。「耕地面積の割合」は県平均より高いものの、第2種兼業農家が多いことから「第1次産業従業者割合」は逆に低く、耕作放棄地の増加もあり「農業の単位面積当たりの労働生産性」は県平均を下回っている。

地域のめざす姿

～多様な人材を呼び込み、人の力で輝く「上田地域」の創造～

- ・ 上田地域は、県内主要都市との「結節点」に位置し、北陸新幹線や上信越自動車道の整備により、首都圏等との人・物の往来が更に便利になってきています。少雨多照の気象条件も相まって、個性豊かな人々が集まり生活を営み、様々な人や団体による多様な取組が根付く「住民力」の高い地域でもあります。
- ・ 今後も、他圏域との連携・交流を深めることにより、暮らしを支える産業振興を図るとともに、地域の活力となる多様な人材を積極的に呼び込み、こうした人材を地域一体となって後押しすることで、地域住民の「力」と外部人材の「力」の相乗効果で輝く上田地域を市町村等と協働して創造していきます。

地域重点政策



1 若者・女性・外部人材の活躍推進 【活躍の場の創出】

大学等高等教育機関が多く、大勢の若者が地域に集う特長を生かし、こうした若者や女性、外国人留学生などが柔軟な発想や豊かな感性を発揮し、地域コミュニティを支える人材として定着・活躍できる場の創出をめざします。

【現状と課題】

- ・ 信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校の4つの高等教育機関等が存立し、3,000人以上の学生が学びながら、中心市街地や管内各地域での取組に積極的に関わっています。
- ・ NPOなどの多様な団体により、都市農村交流や農業・林業体験、起業支援や育児中の女性の就業支援等が行われています。
- ・ また、日本語を学びつつ就業をめざす専門学校等に通う外国人留学生を多く抱える地域で、地域コミュニティへの参加活動も積極的に行われています。
- ・ 今後は、若者・外国人留学生の地域への定着や、女性の更なる社会進出を後押しすることにより、こうした人材が地域コミュニティを支え、活躍できる仕組みや場の創出が求められています。

【取組内容】

● 高等教育機関などと連携した起業・就業の支援

高等教育機関の持つ「知の資源」や蓄積されたノウハウを活用し、若者の意識も踏まえ、企業等と連携した起業・就業の支援策を研究のうえ、取組に移します。

● 世代・地域を越えた交流によるコミュニティの活性化

行動力や意欲溢れる若者や女性、住民相互の世代を越えた交流を積極的に支援し、交流がもたらす地域コミュニティの活力を管内に広げていきます。

● 地域を支える新たな担い手の確保

産業の新たな担い手として期待される外国人留学生の地域内での就労を支援するため、民間事業者と連携した就業体験等の実施に向けた研究を行います。

【達成目標】

指 標 名	現 状	目 標	備 考
都市農村交流人口 (企画振興部調)	30,905 人 (2016 年度)	34,000 人 (2022 年度)	農業体験などで県内を訪れる都市住民の数 [現状の 10% 程度の増加を目標に設定]



2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興 【生活の糧となる産業振興】

佐久地域、長野地域との連携による次世代産業の創出や、今後 100 年地域に根付くワイン産業の振興、地域資源であるカラマツの有効活用による林業の持続的発展など、住民生活の糧となる産業の振興をめざします。

【現状と課題】

- ・信州大学繊維学部や県テクノ財団浅間テクノポリス地域センター、浅間リサーチエクステンションセンター (AREC) 等による産学官連携の取組が進んでいます。
- ・林業(素材生産)や木材産業(県産材の製材品出荷)が盛んであり、また、少雨多照の気象条件や標高差を生かした高原野菜やぶどうの産地で、近年、良質なワインの産地としての評価(2016 年の伊勢志摩サミット等で提供)も高い地域です。
- ・一方、成長性の高い次世代産業への参入や農・林産物の高付加価値化、ブランド化など、安定した経営基盤を確立するための取組が求められています。

【取組内容】

● 次世代自立支援機器・産業機器製造業の集積

健康・医療等の成長産業(動作支援ロボット・省力化機械等)への参入を促すため、その基盤づくりに向けた分野別研究会の開催や地域間取引を拡大するよう企業間のビジネスマッチングを行うなど、東信州次世代産業振興協議会(9 市町村で構成)の活動を支援します。

● 消費者から選ばれる農産物の地域内循環の推進

近年売上が伸びている農産物直売所が地域産品の販売拠点として消費者に信頼されるものとなるよう、直売所の魅力アップや情報発信力強化に努めるとともに、佐久地域と連携した消費実態調査を踏まえた地域食材の宿泊施設等への供給体制の構築や更なる販路の拡大をめざします。

● 千曲川ワインバレーを地域に根付く産業資源として育成・振興

気象データや IoT* を活用した栽培に関する研究開発が進められる中、生産圃場の整備を進めるとともに、そうした技術を活用するなどワイン用ぶどうの安定生産、高品質化を図ります。また、千曲川ワインバレー特区連絡協議会(8 市町村で構成)と連携し、ヴィンヤード* や個性豊かなワイナリーの PR を行うとともに、ワインイベント、周遊型旅行商品の企画等によりワイン産地としての認知度アップを図ります。

● カラマツ林業の再生、森林認証材の普及による東信カラマツ等の販路拡大

カラマツの持続的活用を図るため、佐久地域と連携したブランド戦略の強化に

よる付加価値の向上や製品開発、海外も含めた販路開拓を支援するほか、松くい虫被害材などの木質バイオマス*燃料等への利用拡大を図ります。

【達成目標】

指 標 名	現 状	目 標	備 考
ワイン用ぶどう栽培面積 (上田地域振興局調)	75ha (2016年)	110ha (2022年)	ワイン用ぶどうを栽培する耕地面積 [造成予定の圃場面積を積上げて設定]
常設農産物直売所売上額 (同上)	18億円 (2016年)	22億円 (2022年)	1年間の農産物直売所の売上金額 [現状の20%程度の増加を目標に設定]



3 地域の強みを生かし健康をテーマとした観光地域づくり【交流を促す観光】

豊かな自然と豊富な地域資源を生かし、健康づくりやスポーツ合宿、インバウンド*対応など、地域との交流を促す魅力ある観光地域づくりをめざします。

【現状と課題】

- ・標高差のある豊かな自然に恵まれた菅平や湯の丸等の高原、塩田平のため池や稲倉の棚田などの美しい景観、国宝安楽寺八角三重塔などの文化財や別所・鹿教湯等の歴史ある温泉など、魅力的な観光資源がコンパクトに集積されています。
- ・高速交通網により首都圏・北陸方面からのアクセス性に優れ、長野・松本・諏訪・佐久地域に隣接する交通の要衝に位置しています。
- ・一方、大河ドラマ「真田丸」の効果により、平成28年には過去最高の観光客の入込があったものの、観光消費額はこれまでのピーク時(平成3年)の約7割にとどまり、「稼げる観光」への転換及びインバウンド(訪日外国人旅行者)への対応が求められています。

【取組内容】

● 地域資源(温泉・高原等)を活用した体験・滞在型観光の推進

ため池や上田地域に生息する多様な生物などについて、暦・マップや動画によるPRを進めるとともに、温泉地や高原等をフィールドに周辺の多彩な観光資源をつなぎ合わせ、地域の健康づくりのツールとして、また、地域住民等が上田地域の良さを「学ぶ場」としても活用しながら体験・滞在型観光を推進します。

このため、官民協働の推進母体としてヘルスツーリズム推進協議会(仮称)を立ち上げ、特色を生かした取組につなげていきます。

● 外国人観光客の満足度を高める受入環境の整備

案内看板、パンフレットの多言語化を促進するとともに、外国文化やおもてなしに関する勉強会を開催し、受入態勢をソフト・ハード両面で整備するほか、外国人留学生等の協力を得てブログやSNSで情報発信を行います。

● 観光地域におけるインフラの整備・支援

菅平高原等の観光地へのアクセス道路の改良、上田城跡周辺等における歩道整備や無電柱化により、景観の向上及び安全で快適な通行空間の確保を図ります。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査 (観光部)	692 万人 (2012～2016 年の平均)	692 万人 (2022 年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [2012年から2016年までの5年間の平均値を目標に設定]
観光消費額 (同上)	167 億円 (2012～2016 年の平均)	167 億円 (2022 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [同上]



4 結節点という立地を生かした住環境整備・移住推進【人を呼び込む住環境】

首都圏とのアクセスのよさ、交通の「結節点」である立地条件、豊かな自然環境という特長を最大限生かし、医療、教育、子育て、地域公共交通など生活基盤の充実を図りながら移住を推進します。

【現状と課題】

- ・高速道路、新幹線等の高速交通網の整備により特に首都圏とのアクセスがよい地域です。
- ・人口動態における転入の最も多い年齢層は、当地域では35歳～39歳となっており、子育て世代の転入者の割合が高いと推測されます。
- ・一方、多様な人材を呼び込むための魅力ある住環境の整備と情報の発信による効果的な移住施策の実施が求められています。
- ・また、メタボリックシンドローム該当者の割合や生活習慣病による死亡率が他の圏域と比べて高く、健康づくりの実践が課題となっています。

【取組内容】

● 自然を活用した魅力ある子育て・教育環境の整備と移住推進

市町村やNPOなどと協働して信州やまほいく*の普及や子どもの居場所づくりを進め、子育てしやすい環境について積極的な情報発信に努め、特に首都圏をターゲットに自然や住環境をアピールポイントにした移住施策に取り組みます。

● 医療・健康づくり及び介護サービスの充実と連携強化

市町村、企業、医療・保健・福祉関係者との連携を強化し、医師等の確保に努め、健康に配慮した世代別食事メニューの普及等の信州 ACE プロジェクトにより地域住民の健康づくりを推進するほか、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活し、本人らしい最期を迎えられるよう地域包括ケア体制等の構築を進めます。

● 人・物が行き交う基盤となる交通網の整備と安全・安心な住環境の確保

安全・円滑な交通を確保するため、道路法面への防災対策や道路の拡幅等を市町村と調整の上実施するとともに、住宅の耐震化や地域公共交通の確保に向けた取組を支援します。

また、当地域と松本地域とを結ぶ青木峠トンネルの調査・整備を進めるほか、県内外の他地域との交流を更に推進する道路網の整備について検討します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	98 人 (2016 年度)	160 人 (2022 年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [現状の 60% 程度の増加を目標に設定]